

「大阪市立図書館蔵書構築のあり方 令和3（2021）～令和7（2025）年度」（中間振り返り）

【1 中間振り返りにあたって】

令和3（2021）年度に、令和7（2025）年度までの5か年で社会情勢の変化に伴う新たな課題に取り組み、知識創造型図書館のさらなる充実を目指すことを目的として「大阪市立図書館 蔵書構築のあり方 令和3（2021）年～令和7（2025）年度版」を策定しました。令和5年度は5か年の中間年にあたります。中間振り返りでは、下記の取組指標について把握・検証を行うとしています。

- 1 蔵書構成比（類別）【基本方針1】
- 2 デジタルコンテンツ数【基本方針1】
- 3 児童書の蔵書冊数【基本方針2】
- 4 学校支援用図書の蔵書冊数【基本方針3】
- 5 寄贈図書の受入冊数【基本方針4】

この5つの指標に加え、今回、大阪市立図書館全体の目標に即した蔵書構築のあり方を考えていくために、「大阪市立図書館が取り組むべき目標」から参考指標となる項目についてもとりあげています。

この中間振り返りによる評価や反省点などを踏まえ、最終的な目標達成のために引き続き取り組んでいきます。

【2 基本方針と具体的取組及び実施状況について】

大阪市立図書館は、「いつでも、どこでも、だれもが課題解決に必要な情報にアクセス可能な“知識創造型図書館”」を基盤とした図書館サービスの提供を目標としています。市民の課題解決に役立つ資料の選択・収集をし、蔵書を計画的組織的に形成することを目的に、4つの基本方針を設けて取り組んできました。

- ①知識を創造する図書館へ—情報拠点化施策への推進—
- ②心を育て、人をつなぐ図書館へ—子どもの読書相談支援センターとしての機能強化—
- ③学校との連携と学校図書館の活性化支援
- ④蔵書管理体制の確立

この基本的な考え方や方針は継承しつつ、新たな視点を加え課題として掲げた取組について、進捗状況をはじめ、これまでの成果や今後の方向性などを中間振り返り（令和5年3月末時点）としてまとめました。

基本方針1

地域の総合的な知識情報活用基盤として、従来型の図書資料にとどまらず、電子資料も収集することにより、身近な課題解決に必要な資料を整備し、各館の蔵書規模に応じて適切な蔵書構成とします。

	具体的取組	参考指標
拡充	①社会情勢に対応した多様な資料の収集	アクセシブルな資料の所蔵冊数（点数・タイトル数） <点字図書> ・令和3(2021)年度 6,165冊 ・令和4(2022)年度 6,196冊 <カセットテープ> ・令和3(2021)年度 1,854タイトル ・令和4(2022)年度 1,859タイトル <大活字図書> ・令和3(2021)年度 36,900冊 ・令和4(2022)年度 37,148冊 <LLブック(注1)> ・令和3(2021)年度 619冊 ・令和4(2022)年度 696冊 <音声デージー図書> ・令和3(2021)年度 961冊 ・令和4(2022)年度 1,217冊 <マルチメディアデージー> ・令和3(2021)年度 192点 ・令和4(2022)年度 226点 <さわる絵本> ・令和3(2021)年度 183冊 ・令和4(2022)年度 196冊 <布の絵本> ・令和3(2021)年度 143冊 ・令和4(2022)年度 143冊
拡充	外国語資料の充実	外国語図書の受入冊数 ・令和3(2021)年度 1,072冊 ・令和4(2022)年度 1,127冊

（注1）スウェーデン語のLättläst(レットラスト)の略で、やさしい言葉で分かりやすく書かれた本。

	具体的取組	参考指標
継続	② 区の情報拠点としての地域の資料・情報を収集	地域資料収集冊数 ・令和3(2021)年度 5,892冊 ・令和4(2022)年度 5,347冊
継続	③ 電子資料の収集・提供による電子図書館機能充実	電子書籍の提供コンテンツ総数 ・令和3(2021)年度 7,166点 ・令和4(2022)年度 7,286点 デジタルアーカイブのオープンデータ公開コンテンツ総数 ・令和3(2021)年度 7,304点 ・令和4(2023)年度 7,910点
継続	④ 各館の蔵書規模や特性に応じて、市民のニーズにあった図書館資料の収集とタイトル数の確保	新刊購入タイトル数 ・令和3(2021)年度 29,029タイトル ・令和4(2022)年度 27,289タイトル 寄贈図書受入冊数 ・令和3(2021)年度 35,102冊 ・令和4(2022)年度 33,254冊
継続	参考図書(注2)や主題図書(注3)など市民の課題解決に役立つ資料の充実 (注2) 特定の知識・情報について調べるための図書。レファレンスブック。辞書・事典等。 (注3) 文学作品や絵本を除く各分野の図書。	地域館主題分野の構成比率 ・令和3(2021)年度 63.4% ・令和4(2022)年度 63.8% 参考図書受入冊数 ・令和3(2021)年度 1,996冊 ・令和4(2022)年度 1,708冊
評価	予算縮減が続いているが、地域館での蔵書構成における主題分野の比率が微増、また外国語図書の収集も全館実施となるなど、おおむね目標どおりの収集ができています。蔵書検索では電子資料もあわせて検索できるようにデータ整備を行い、活用につなげている。引き続き多様な資料の収集に努め、今後の課題として、新たな資料提供の可能性についても検討していく。	
基本方針2		
各区の子どもの読書相談支援センターとしての機能強化を果たし、子どもの読書活動の推進につなげるために、児童書を整備します。		
	具体的取組	参考指標
継続	① 子どもの読書活動と豊かな学びを支援するための資料を収集	児童図書所蔵数 ・令和3(2021)年度 985,132冊 ・令和4(2022)年度 993,942冊
継続	② 子どもの読書環境を整備するための資料を収集	読書環境整備用図書所蔵数 ・令和3(2021)年度 53,649冊 ・令和4(2022)年度 53,805冊
評価	子育て支援施設や保育所・幼稚園等への団体貸出に必要な資料を整備する等、概ね目標通り取組を実施できている。「第4次大阪市子ども読書活動推進計画」に則り、引き続き、子どもの読書活動の推進につなげるために、児童書の収集に努める。	
基本方針3		
学校との連携を進めるために、団体貸出や調べ学習支援に役立つ資料を収集するとともに、学校図書館の活性化を支援します。		
	具体的取組	参考指標
継続	① 各教科の調べ学習用資料を収集	調べ学習用図書受入冊数 ・令和3(2021)年度 437冊 ・令和4(2022)年度 486冊
継続	② 学校の「朝の読書」などに活用する一斉読書用図書を収集 ③ 学校図書館の支援となる資料の充実	学校支援用図書所蔵冊数 ・令和3(2021)年度 28,801冊 ・令和4(2022)年度 29,971冊
評価	学校の調べ学習用資料や読書支援用の資料収集等、概ね目標通り取組ができています。引き続き学校図書館を支援する資料の収集に努めるとともに、学校の調べ学習課題に有用な資料群について、ニーズに即した内容に更新できるよう検討する。	

基本方針4		
効率的で効果的な蔵書管理体制を確立するとともに、地域の企業、団体、大学など関係機関との連携を強化し、蔵書の豊富化につながる取り組みを進めます。		
	具体的取組	参考指標
拡充	①資料を適正に保存するための書庫計画作成 ②適正な蔵書管理を目指した保存方針の改定	資料を適正に保存するための書庫計画作成 ・策定した「大阪市立図書館資料保存及び除籍要綱」及び「同運用細則」に基づき、定期的に除籍を実施 適正な蔵書構成を目指した収集・除籍・保存方針の改定 ・令和4年9月「大阪市立図書館資料保存及び除籍要綱」策定 ・令和5年2月「大阪市立図書館資料保存及び除籍要綱(運用細則)」策定
継続	③ 司書の専門性向上と人材育成の充実	書誌整備に関わる研修の実施 <国立国会図書館と連携したアジア言語書誌研修> ・令和3(2021)年度 ビルマ語書誌作成研修 ・令和4(2022)年度 ハングル書誌作成研修 <全職員を対象とした月次研修の実施> ・毎年1回実施 <年次別職員研修> ・毎年1回実施
継続	④ 地域との連携を図り、地域資料を収集	・大阪市役所各部局に刊行資料の寄贈依頼 ・大阪市内の会社の社史、CSR報告書等の受入 ・ホームページ、メールマガジン、SNS、館内設置ちらし等を利用した寄贈依頼 ・共催事業先の発行物の受入
継続	⑤ 寄贈資料の受け入れ促進と財源確保	企業・団体からの寄贈受入冊数 ・令和3(2021)年度 978冊 ・令和4(2022)年度 1,589冊 ふるさと寄附金額 ・令和3(2021)年度 ￥1,721,000円 ・令和4(2022)年度 ￥10,848,000円 ※うち￥10,000,000円は新淀川図書館用寄附分
評価	令和4年度は、適正な蔵書管理を行うため、図書館資料の保存・除籍に関する方針をまとめた。また、ホームページ等で寄贈募集を実施するなど、企業・団体への寄贈依頼も積極的に行い、概ね目標通り取組を実施している。今後も引き続き適正な蔵書管理、寄贈資料受入や財源確保に努める。	

【3 まとめ】

取組については、概ね予定通り進んでいます。中間振り返りの評価を踏まえ、今後も引き続き5か年計画を推進していきます。また、最終年度である令和7（2025）年度に全体の評価を実施します。